

# 会 議 記 録

政策企画局 まちづくり協働課

開催日	平成 22 年 6 月 22 日(火)	開催時刻	19 時 00 分から 21 時 00 分
会議名	上田西部地域協議会(平成 22 年度第 3 回)		
出席者	中島会長、宮尾副会長、小林委員、小宮山委員、佐藤修一委員、佐藤祥一委員、鈴木委員、関委員、高橋委員、竹内委員、竹村委員、原委員、廣田委員、布施委員、増田委員、宮下委員、森泉委員、山崎委員、渡辺委員 (欠席者)松本委員 (事務局)山崎まちづくり協働課地域振興政策幹、 林まちづくり協働課課長補佐、堀内まちづくり協働課主査 (説明者)樋口子育て・子育て支援課長、東井地域交通政策課長、田中地域交通政策課課長補佐、翠川産院建設準備室長、池田産院建設準備係長、小宮山まちづくり協働課長		
会議次第	1 開会(宮尾副会長)  2 会長あいさつ 本日は 5 項目ほど議題がある。上田市の自治基本条例策定に向け検討委員から市へ提出された「中間報告」について説明をいただく。これは少し説明に時間がかかると思う。また、前回協議した内容の中で、今後どのように進めていくか、協議してまいりたい。よろしくお願ひしたい。  3 会議事項 (1) 上田バス「長野病院線」の運行見直しについて 資料：「上田バス『長野病院線』の運行見直しについて」 地域交通政策課から説明  【主な質疑等】 (委員) 利用客数はどのくらいあるのか。 (担当課) 長野病院線については、上田バスによると平成 16 年に 53,816 人だ。以降平成 17 年度は、46,229 人、18 年度 46,472 人、19 年度 39,198 人だったが、20 年度になり 37,433 人、21 年度には 29,418 人と大幅に減少している。 (委員) 1 台辺りの人数はどのくらいになるのか。バスの小型化など検討しているのか。 (担当課) 1 便あたりについては、手元に資料がなくはっきりしたことがわからない。バスの小型化については、同じバスを他のコースにも乗り回して、出来るだけ運転		

手さんを効率的に配置する形で運行しているため、他で大きなバスの車両が必要な場合もあり、なかなか特定の路線だけ小型化することは難しい。小型のバスにするには設備投資の問題も出てくる。車両の保有の中で、効率的な乗り回しをしている。  
(会長)ここまで減少した要因をつかんでいるのか。

(担当課)上田バスによると、長野病院で診察される方が減少したこともあるだろうということだ。昨今の経済状況が悪い中、短い区間にはバスを乗らず、他の交通機関や自転車、お家の方が送るなどの要因が考えられる。逆に通勤通学においては、皆さん利用されているようだ。公共交通が生活の足という方は、利用が少なく非常に苦戦している。今後継続していくには、地域の皆様のお力沿いを頂き、乗って残すという方向性を出していただきたい。

(会長)この問題については、地域協議会として地域で方策を考える必要があると思う。

## (2) 上田市産院移転新築事業について

資料：「上田市産院移転新築事業について」 産院建設準備室から説明

- 1.位置づけ
- 2.計画概要
- 3.配置図

### 【主な質疑等】

(委員)イメージ図で、長野病院に北から入ってくる道路があり、南に割り込む車が多いが、西側の道路が狭い。すれ違いの出来る道路を平行して出来ないか、検討して欲しい。

(担当課)西側の道路は、現在 4m位、およそ車 1 台分の幅だと思う。第 3 中学校などに行く方がここですれ違うので、南側の道路と北側の道路で渋滞している状態だ。産院建設準備室の立場で、道路の拡幅について明言することはできないので、道路管理者の方にご意見を伝えておきたい。

(会長)今回の予算には道路の関係は入っていないだろう。長野病院や産院に行くためには、道路を整備する必要があると思う。

(委員)バスに乗る人が少ないとか、産院を新築して利用する人を多くしようという話だが、市としては医師を呼ぶことは考えているのか。長野病院に魅力のある医師がいれば、皆が利用すると思う。

(担当課)産院のこともそうだが、地域の病院にお医者さんが勤務して下さることが、地域医療の体制に寄与することになるので、準備をしているところだ。地域医療の再生計画において、産院の移転新築も事業の中に含まれているが、一番は長野病院さんを魅力的にし、お医者さんに来ていただく状況を目標としている。そこで信州大学との連携を深めるよう、地域医療センターの設立ということで動き始めている。

(委員) 周産期医療で、産科や小児科の先生方は現実に全国的に少ない状況にある。地域においても先生方が引き上げられているので少なくなっている。民間の病院も大きなところはそうだと思うが、大学からの派遣という形がほとんどだ。現実的な問題として有名な先生をお連れすることは厳しいと思う。7月から現在秋田大学名誉教授である先生をお呼びした。産婦人科の医療界においてはビックネームの先生だ。そのような先生に非常勤ではあるがお越しいただく。

(委員) 現実的な問題で、例えば朝2番に受付をしたが11:30になってもまだ呼ばれない。他の病院から紹介状を持っていかないと、外来で来た患者さんは一番最後に回されるそう。12:00までに診察していただかなくて帰ってきた。

(委員) 長野病院の性質が、かかりつけ医から2次医療を受けるところで、逆にかかりつけ医から紹介されている患者さんは、予約を取って行っている。直接の場合、待たされるのは覚悟して行っていただくようにしないと、1次医療・2次医療・3次医療は壊れてしまう。

今、長野病院の先生はかなりいい先生がそろっている。そのことを市民が知ることにより、長野病院の位置づけをはっきりさせなくてはいけない。これから高齢化が進んできたときに、緊急医療から、見取りと介護というところが変わってくるので、近所のお医者さんをお願いしていかなくてはいけない。地域協議会の委員さんや、市の方でも広報で力を入れていくべきではないか。

産院の村田先生はかなりできる方で、行政の方も村田先生のいらっしゃる沖縄にかなり通われたし、副市長も秋田のご実家にいたり、市長も沖縄にいたり、行政で一生懸命動いていることを話さないと、誤解が出てきてしまう。新しい産院も出来、小児科がきちんとし始めた長野病院としっかり連携が取れると、上田市は全国的に見てもお産を勧めるところになってくるので、きちんと広報をやっていくべきだと思う。

(担当課) すばらしい意見をありがとうございます。アピールは私どももしたかった。行政としてもその方向で頑張りたいと思う。

(委員) 平成20年度で、479件のお産件数を25年度に630件にしたいというお話だったが、これは現在いるお医者さんから割り出したのか、今回の設備でこの数字になったのか。

(担当課) 目標値に関しては、平成18年度前院長先生と非常勤医お二人で、688件分娩を取り扱っている。19年度は前院長先生が12月で退職になったが、660件扱っている。先生の数回復させ、安全性の向上・老朽化の対応。医師の数を増やし、その上で出生数、上田市は1500人ほどの出生数があり、上小を含めると1900程度に上がってくる。必要数を割り出すとこのくらいの数字になってくる。両方の状況を見ながらの目標数値になる。

### (3) 乳児院の民営化について

資料：「乳児院の民営化について」 子育て・子育て支援課から説明

1. 乳児院の状況
2. 今後の乳児院の必要性
3. 民営化についての考え方
4. 今後の進め方

#### 【主な質疑等】

(委員) 歳入と歳出を見ると、歳出の方が多いということが民営化の1つの要因になっていると思う。人件費が多いということだが、民営化して福祉法人だけで運営していく場合も、施設の経営は大変ではないか。

(担当課) 乳児院にいる市の職員はベテランがそろっていて、人件費がかさんでいる。社会福祉法人の中で、若い世代の保育士さんがいらっしゃるようなところだともっと人件費を抑えることが出来る。どうしても定員があるので、定員を割ってくると補填しなければならないことが出てくると思うが、ある程度の人数を満たしていれば、その中で経営は出来ると思う。

(委員) 実際にやってみなければわからないと思うが、各養護施設もたいへんな状況になっている。個別対応が出来ないので、子供たちが回復しないまま社会に出ている現状がある。上田市が関わってきた施設であるならば、民間に委託しても市が支えていくことは続けて欲しい。

(担当課) その後のケアもしていきたいと思っている。施設を選ぶときにも、子供さんを預かればいいという認識でなく、通常の子供さんよりもきちんとしたケアをしてあげるように認識をもったところに是非お願いしたいと考え、業者選定をするときにもそのような視点で行っていきたい。市内で運営していただくところがあれば、子供たちに支援していきたいと思っている。

(委員) 実際、福祉法人で出来そうなところはあるのか。

(担当課) これから公報するところなので。第一段階として考えているところは、乳幼児を扱っている社会福祉法人ということで、民間の保育園や児童養護施設、そのような子供さんと直接関わっているところをお願いしたいと考えている。

(委員) 応募が無かったときにはどうするのか。

(担当課) そのような心配もあるが、第一段階としては子供を扱っている施設、次の段階としては、特養など、24時間ケアをしているところ。ノウハウを持っているところでないと難しいので、そこを考えている。出来れば上田市内に考えているが、どうしてもというときには、東信のエリアに一箇所は施設があるところで考える。子供のケアが出来るところがないとすれば、市独自で運営していくことも出てくるかもしれない。今の施設では老朽化しているので、場合によっては新たなものを

ということも出てくるかもしれない。全国の様子を見ても、出来れば社会福祉法人でお願いをしてまいりたい。

(委員) 乳児院について、行政改革の一環として民間に出来ることを民間でという視点で、この問題を扱って欲しくない。乳児院をなぜ民間に委託するのか、市のきちんとした姿勢が見えるような理念を出していただきたい。経費削減の対象ではないと思う。

(委員) 乳児というのは何歳までが乳児なのか。

(担当課) 乳児というのは本来 1 歳未満の子供さんだが、現在乳児院では 2 歳未満の子供さんをお預かりしている。事情により、お家に戻れない子供さんもいるので、次の児童養護施設や里親さんのところに行く子供さんもいる。その中で 2 年を越えて 3 年という子供さんもいるが、3 歳児以上の子供さんは県内の乳児院にもいない状況だ。

(委員) 上田市は、本当に子供たちのことを考えてやり続けてきた現状があると思う。こういうことこそ行政がやっていかなければ、民間では赤字など考えて手放したり、苦しく大変な状況になっている。できれば市の職員の年齢を若くして、人件費を下げるなど、考えたほうがいい。

(担当課) そのようなご意見をいただいたことは、承知しました。

(委員) 原峠保養園では特に義務教育のお子さんを預かっている。それに対して市はどの程度の補助をしているのか。

(担当課) 原峠保養園は社会福祉法人が運営しており、児童養護施設ということで、乳児院をでた上の年齢の子供たちが行くところになっている。その子供さんたちについては市からお金が出るわけではなく、措置費で運営している。

(委員) 施設や土地は上田市のものか。

(担当課) 分校についてはわからない。一人の子供さんが生活するために必要と思われるお金を、国が全額見ている。1 人に対して、定員の人数によっても違うし、スタッフの数、職種によっても加算が違ってくる。その措置費の中からまかなわれることになる。

(委員) 1500 万円という赤字がこの事業に対して決して大きな赤字だとは思わない。

(会長) 西部公民館の児童に対する議題の 1 つになるので、皆さんの関心も高かったと思う。

(4) 自治基本条例の制定に向けた条例検討委員会「中間報告」の概要について  
まちづくり協働課から説明

資料：「上田市の自治の基本原則等を定める条例 検討委員会 中間報告」  
「上田市の自治の基本原則等を定める条例の策定に関する基本方針」  
「進めています まちづくりのルール！」

「近隣・地縁組織の変遷」

「日本人（国民）と外国人 制度と歴史」

【主な質疑等】

（委員）他の都市の動向はどのようになっているのか。

（担当課）1年くらい前の情報では、全国で120件くらいは出来ているだろう。自治基本条例と呼ばれる構成になっている条例だ。今は180件くらいになっている。時代とともに変化をして、自治基本条例と呼ばれるようなオーソドックスなタイプと、市民協働に限定したような条例、行政基本に限定したような条例、そのようなものが種類を変えてかなり出てきている。同時に同じものを持っていたり、自治体によっては2つ～3つ持っているところもある。自治基本条例は構成が決まっているわけではない。ただし、まちづくりの主体の役割とそれに必要な要素が入っていなければならない。調査をかけても、内容自体を見ないとはっきりしない。180件という状況は、自治体が大体1,800くらいあるので1割程度が作っていることになる。

（委員）それは大都市だから、小さいからというものではないのか。

（担当課）傾向としては、小さい都市が多い。少し危機感の強いところになる。合併によってもめたところである。大都市でも作っているところはたくさんある。

（5）今後の進め方について

（会長）前回会議の中で地区連の議題として上げられた課題の4項目、そのうちの見直しの話の中で、太郎山トレッキングコースの現地の状況を確認してくる。具体的には24日だが、会長と山崎館長と森林整備課の職員、この3人で実際に確認したいと思う。皆さんも実際に見てから協議した方が、今まで4年間協議してきた方々に対する誠意だと思うし、7月20日に全部は見れないのでポイントの場所を確認して進む。

（6）その他

・西部地域で語る会 開催のお知らせ

（7）次回会議の開催と今後の日程について

第4回西部地域協議会 平成22年7月22日（木）

4 報告事項等

5 閉会